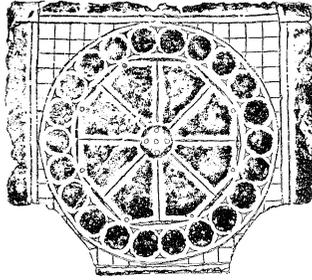


飛鳥・藤原宮発掘調査概報 6



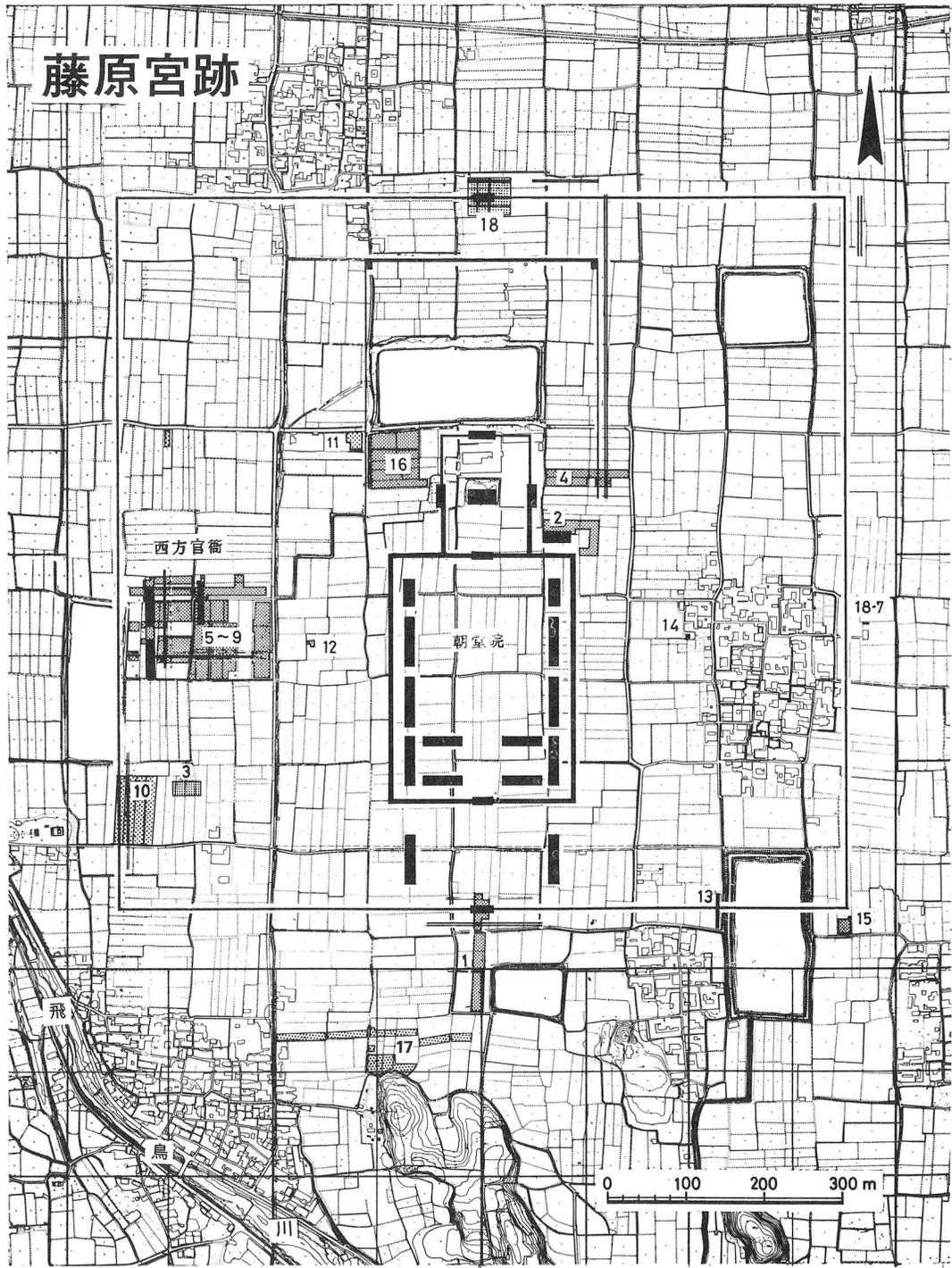
昭和 51 年 5 月

奈良国立文化財研究所

飛鳥・藤原宮発掘調査概報6 正誤表

頁	行	誤	正
3	↓ 5	S F1832	S F1732
〃	↓ 10	〃	〃
4	↓ 6	〃	〃
〃	↓ 7	〃	〃
〃	〃	S F1831	S F1731
〃	↓ 11	S F1832	S F1732
〃	↓ 15	方眠北	方 <u>眠</u> 北
5	↑ 6	S F1832	S F1732
6	↓ 13	S B1819	S B1820
9	↓ 6	1818	1828
22	↓ 3	一到	一致
〃	↑ 1	石寸ア	石寸マ
25	地図	大宮大寺	大宜大寺
〃	↑ 1	弥生武	弥生式
38	地図	第14次	抹消
46	↑ 2	<u>左京一坊十二条</u>	<u>右京十二条一坊</u>
47	↓ 6	<u>堀</u> 立柱	<u>掘</u> 立柱
〃	↓ 7	暗灰粘質土	暗褐粘質土
48	実測図	S A051	S B051
50	↓ 7	発掘	発掘
56	↓ 2	<u>掘り</u> こんだ	<u>掘り</u> こんだ

藤原宮跡



網：調査地 数字：調査次数

飛鳥・藤原宮発掘調査概報 6

目 次

藤原宮第16次(南)の調査	3
藤原宮第17次の調査	10
藤原宮第18次の調査(附18-7次)	16
大官大寺第2次の調査	25
和田廃寺第2次の調査	38
田中遺跡の調査	47
本薬師寺西南隅の調査	49
川原寺の調査	55

飛鳥・藤原宮跡発掘調査部は、昭和50年度の調査として、藤原宮、大官大寺、和田廃寺、本薬師寺、川原寺、田中遺跡等の発掘を実施した。

藤原宮では、第18次までの調査を終了した。第18次調査においては、藤原宮北面中門の確認という所期の目的を達成するとともに、朱雀大路宮内延長部の遺構を検出し、藤原京条坊の復原についての重要な資料を得ることができた。

大官大寺の調査は、中門・南門・回廊遺構の確認を目的として実施し、南門跡こそ確認し得なかったが、中門及び南面回廊の遺構を検出した。

和田廃寺では、「大野塚」を中心とした一帯を発掘し、「大野塚」の土壇が塔跡であることを確認した。また、7～10世紀にわたる多数の掘立柱建物跡を検出したが、それらの性格の解明についてはなお問題を残している。

本薬師寺の調査は、市営住宅への進入路建設に伴って実施し、藤原京内で初めて大路の存在を確認することができた。

田中遺跡の調査は家屋の新築に伴う事前調査として実施したものである。

表紙カット解説

この鬼板は、奥山久米寺塔跡付近で採集したものである。全体の $\frac{1}{3}$ あまりの破片で、現存部の大きさは縦24.5 cm、横20.5 cm、厚さ約3 cmである。復原すると縦約33 cm、横37 cm程になる。紋様は、かつて奥山久米寺から出土したものと同一である。裏面はハケによって平滑に調整している。下端には弧状の抉りがある。棟端に固定するための装置はない。下端の左右に抉りのある鬼板は、わが国では従来例を見ないが、降り棟に用いる鬼板として百済にその例がある。奥山久米寺の例は、百済例を参考に降り棟用の鬼板として復原したものである。